

芸術科（美術）学習指導案

授業者 高等学校
教諭

1 日時 令和7年10月1日（水） 第6校時

2 場所 美術教室

3 対象 202HR 美術Ⅱ 選択者（12名）

4 教科（教科書） 美術Ⅱ（高校生の美術2 日本文教出版）

5 題材名 版の表現「ドライポイント」

6 題材設定の理由

美術Ⅱでは、1学期に色彩課題、PowerPointによるデザイン課題提案プレゼンテーションや抽象彫刻等、多様な表現活動を行ってきた。2学期はこれまでの既習内容を深め、より専門的な表現を目指すため、凹版技法の一種であるドライポイントに取り組む。版画制作は、版を作る過程の楽しみや、刷り上がることへの達成感など、表現することの喜びを感じられる題材である。また、展覧会などでも多く作品を目にすることができる、身近な美術表現の一つである。しかし腐食液の取り扱いの難しさなど、凹版版画は授業で扱うことが難しい部分がある。今回は硬質PET版を基礎材に用い、直接描刻による版づくりを行うことで、環境に優しく、かつ安全に制作を行うことが可能である。本課題では、「私の大切なもの」をテーマとし、観察、デッサンしたものを構成し、版下絵とすることで、主体的に主題を生成し、モチーフの魅力を生かした表現へと昇華させたい。また、版にインクを詰めてローラーで刷るまでの作業工程を理解させた上で、見通しを持ち、計画的に進めることができるよう、指導したい。最終的には三色のインクによる深い色あいを求めて刷りを行い、額装・展示・鑑賞まで進めることで、個々の達成感を味わうとともに、専門的な美術に関する資質・能力を高めていきたい。

7 題材の目標

- ・様々な作品を鑑賞することにより、凹版版画の特性や良さについて理解を深めるとともに、自らの版画表現の可能性を追求する態度を養う。
- ・材料や用具などを工夫して独創的・創造的な版画表現を行うことで専門的な資質・能力を身につける。

8 生徒観

多くの生徒が制作することに興味を持って取り組み、課題に対しても丁寧に制作を進めることができる一方、進度は全体的に遅めである。導入時で生徒の下絵を鑑賞する際に、作業計画をイメージさせてから取り組み、構想内容を時間内に表現できるよう、進めていきたい。また、PowerPointによるデザイン課題提案など、豊かな着眼点に基づいた発表ができる反面、鉛筆デッサンなど、観察による描写力にやや欠ける傾向にある。自身が選んだモチーフを丁寧に観察し描写する機会を創出し、豊かな表現へとつなげたい。

9 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・ 様々な版画表現について理解し、線をいかした下絵作りができる。・ ニードルの特性を理解し、表現にあった線描加減を適切に工夫することができる。	<ul style="list-style-type: none">・ 自ら選定したモチーフを元に構図を考え、ニードルによる描画へと進めるための方法について考えている。	<ul style="list-style-type: none">・ 描画材の使い方を工夫し隅々まで丁寧に表現しようとしている。

10 計画 総時間数 10 時間

- (1) 鑑賞：ドライポイント版画について モチーフの検討 (1 時間)
- (2) 下絵のスケッチ (2 時間)
- (3) 下絵の描刻 (版づくり) (2 時間：本時)
- (4) 一刷り・版修正・二刷り (3 時間)
- (5) 本刷り完成 マット入れ額装・展示 (2 時間)

11 本時の目標

- ・ 作家作品の鑑賞により、様々な版画表現の特徴や表現工夫に着目し、自らの表現に生かそうと取り組むことができる。
- ・ 構想を具体的に版へ描刻表現するために、材料や用具の特性を生かした効果的な版づくり計画をたて、進める事ができる。

12 本時の準備物

- 《生徒》 教科書 描画用筆記用具 下絵デッサン 元になる写真やモチーフなど
《教師》 参考作品 (スライド) 硬質PET版 黒画用紙 ニードル マスキングテープ

1 3 本時の展開（50分）

時間	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価規準および 評価方法
導入 10分	<p>（題材への理解）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作家作品の作品を鑑賞し、凹版画の特徴を理解する。 ・「私の大切なもの」を題材としたモチーフ下絵を鑑賞する。 ・参考作品を鑑賞し、線描・ハッチングによる陰影表現の方法を知る。 ・下絵転写の方法について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品をモニターテレビで提示し、作家の独自手法を生かした版画表現について理解させる。 ・ニードルの描写により力加減により様々な表情の線ができることを理解させる。 ・下描きを鑑賞し、どのような版づくりにできるか、ポイントを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・版画作品を鑑賞し、作者の工夫をとらえている。（発言・活動の様子） ・版下絵を意識した下描きができています。（生徒作品）
展開① 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・下絵をPET版に固定し、下絵にあわせてニードルで版に線描彫り込みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完成作品は下絵の反転で刷り上がることを留意する。 ・下絵がずれないように固定しつつ、時折黒画用紙を下敷きにして描写状況を確認するように指導する。彫り込む力の強弱によって線の太さが変わることや陰影描写をハッチングで線を重ねて表現できるように個々に指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・画材の特性を理解し、適切に使用できているか。（本作品） ・活動の様子）
展開② 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況の確認を行う。 線描を密にし、陰影や線の太さを強めたいところなど全体のバランスを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒画用紙を下にして刷り上がりイメージを確認し、完成度を高めるための描写について検討させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の進捗状況と表現したいイメージを照らし合わせながら制作に取り組んでいるか。（活動の様子）
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の作業計画を確認する。 引き続き描刻できるよう、下絵を固定し、片付け作業に入る 	<ul style="list-style-type: none"> ・次回描刻が終了した順に刷りへと移ることができるよう版インク色の検討をしておくよう伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況を振り返り、次の版づくりへの準備として片付けができていますか。（活動の様子）